

No.62



このコーナーでは、JVIA 会員企業のトップの方に、PRポイントとして「わが社のいちおし」をお聞きし、その企業らしさの秘密に迫ります。今回は60年を超える特殊溶接材料、溶接技術のノウハウをベースに、「接合科学」の研究成果を生かした難接合材真空ろう付工法・ろう材の開発、自動ろう付装置や真空高周波ろう付装置といった真空機器の設計製作、エンジニアリングサービスなどの事業を幅広く展開する、ナイス株式会社です。近年は国内各事業所の充実、拡張とともにタイ、韓国といったアジア圏への進出にも意欲をみせ、「溶接材、溶接補修、真空ろう付」のナイスとして存在感を増している。

## ナイス株式会社

やまもと こうすけ

■代表取締役社長 山本 紘右

【略歴】

1965年4月 現ナイス株式会社入社  
 1994年6月 取締役  
 1994年8月 取締役開発推進室長兼  
 特機エンジニアリング部門長  
 1998年6月 常務  
 2001年8月 海外法人ナイス・タイランド  
 社初代M/D  
 2006年2月 専務営業本部長  
 2009年9月 代表取締役社長、現在に至る



### ■事業概要

ろう付材料から特殊アーク溶接材料まで「ナイス」ブランドで多くの製品群を持つ溶接材料の総合メーカー。あわせて特殊溶接の設計、施工、真空接合・自動ろう付装置のような省力化機器、真空応用産業機械・装置の開発、製造、エンジニアリングなど溶接関連の事業を幅広く展開している。

### ■経営理念

「私たちは溶接、接合の技術サービスを通して産業界に貢献します」半世紀を超えるナイスの特殊溶接材料と溶接技術は、ユーザに密着したスピーディな技術サービスと独創的な発想を送り続けることで蓄積されてきました。研究開発が当社の企業活動の原動力です。

研究活動を他部門の活動に融合させながら経営の中心におき、私たちの研究技術の基軸である「接合科学」を育て、その成果をエンジニアリングサービスとしてお客様へ提案します。

### ■経営の柱

- ・8工場と4営業拠点のネットワーク
- ・充実した技術員と設備を誇る短納期のプラント機器メンテナンス
- ・産業化学機械のオーバーホール技術によるエンジニアリングサービス
- ・難接合材の真空ろう付工法開発
- ・カスタムブランドのろう材と溶接材料の開発
- ・熱間耐摩耗溶接材料の開発とアプリケーション
- ・接合技術を生かした省コスト真空機器の設計製作
- ・自動ろう付装置、真空高周波ろう付装置などのシステムエンジニアリング

本社外観



ナイスタイランド社 工場内



### ナイス株式会社 (本社/工場)

所在地

〒660-0804 兵庫県尼崎市北大物町20-1

TEL: 06-6488-7700

FAX: 06-6488-5066

●従業員数 130人

●資本金 1億5,000万円

●売上高 60億円 (2011年3月期)

内訳: 溶材事業40%、工務事業42%、  
真空・エンジニアリング事業18%

●他の主な事業所: 東京営業所 (東京都江東区木場6-3-19)、千葉工務所 (千葉市原市玉前西1-3-22)、名古屋工務所・名古屋営業所 (岐阜県海津市平田町幡長1306)、静岡営業所 (静岡市清水庵原町142-8)、大阪営業所・溶接エンジニアリンググループ (兵庫県尼崎市金楽寺町2-5-23)、倉敷工務所 (岡山県倉敷市玉野乙島字新湊825-60)、広島営業所 (広島市安佐北区上深川町775-1)、九州工務所 (福岡県直方市上頓野4636-3)

●主要子会社・関連会社: ナイス・タイランド、韓国ナイス

### ■ナイス株式会社の沿革から教えてください。

成り立ちから申しますと、当社は創業者がおられ、同族経営でやってるとか、銀行からトップを迎えてというのでもない。ずっとプロパーできた。私は社長として7代目。不文律で息子がいても会社に入れただめ。いわば「社員世襲制」の会社です。中小企業としては珍しいかと思いますが、オーナーがいませんので、割と自由な感じもあり、学生さんなどからは喜ばれている。

### ■何かと厳しい経済環境にありますが、毎年、何人か学生さんを採用されているんですか。

ええ、4～5人は。

### ■ちょっとイメージが変わりましたがね。本題に戻りまして、設立は1948年(昭和23年)1月ですから2012年1月で64年目を迎えられる。

設立当時は「協和商事株式会社」といって、溶接機材の販売商社としてスタートしました。その後、米国溶接棒メーカーの日本総代理店となるなど徐々に業容を広げ、60年代に入ると特殊溶接の設計・施工(工務部門)に進出し、64年1月にはこの特殊溶接施工を目的として「日本ナイス株式会社」を設立しています。65年5月に米国溶接棒メーカーとの総代理店契約を解消し、8月には低温溶接棒の国産化を目指す「ナイス低温溶接棒株式会社」を設立しますが、69年4月には、それまでの協和商事、日本ナイス、ナイス低温溶接棒の3社が合併、統合し、社名も現在の「ナイス株式会社」に改め、溶接機材の製造、販売、溶接施工といった事業の一貫体制を整えている。

### ■商社からメーカーへ約20年かけて脱皮したわけですね。

商社時代も初めのころから技術サービスをやっておりまして、メーカー的な力を蓄えてきたと思う。輸入した溶接棒ですから使い方を説明したり、品物の材質形状に応じて適切な溶接材料を実演するデモンストレーションを行い、アプリケーションを考える技術営業的な要員がいた。いわゆる技術商社のような存在です。これがさらに溶接施工まで手がけるようになり、60年代後半から溶接加工工場、エンジニアリング工場が相次いで操業を始めています。千葉、名古屋、大阪、倉敷、九州にある工務所(溶接加工工場)などがそれ。鉄鋼や化学プラントなどの設備機器の再生・長寿命化に関連した仕事が多く、組み立てから仕上げ加工まで行うことにより、付加価値のアップに努めてきました。

### ■溶材事業では70年代に入ってもいろいろな動きがあったようですね。

74年に本社工場が被覆アーク溶接棒のJIS表示許可工場になった(2001年5月に辞退)こととか、80年には溶接用フラックス入りワイヤ(複合ワイヤ)の生産を始めました。この複合ワイヤについては96年9月に本社の専用工場を建て替えています(本社第1工場)。

### ■溶材、工務事業に続き、真空ろう付をはじめとする真空事業に着目されたのは。

80年代も後半、昭和62年頃だったと思う。半導体産業の成長にあわせて、当社も真空ろう付の仕事を手がけていたんですが、アルミニウムとか銅の特殊溶接をやっているんだったら、真空チャンバを手がけてみないかという話になった。真空となると少しでも汚れていたらだめだし、ヘリウムディテクタの検査でほんの微小なリークも許されない世界。真空機器についてそれまでも多少は知っていたんですが、溶接構造物でも真空のニーズがあるんだと改めて認識した。それは半導体製造装置であったり、サイクロトロンのような加速器などたくさんあるんです。

### ■日本で半導体産業などが隆盛してくるとともに、真空事業へ本格進出されたわけですね。ほかにも資料を拝見すると、79年11月に三菱重工業高砂工場のASME認定工場になったといった記述もありますね。

他にも認定工場の指定では日立製作所さんからも指定をいただいているんです。この方は水力発電用水車のシール弁にブロンズを溶接するもの。いずれも特殊な合金や異種金属を溶接するんですが、いまでも続いています。

### ■99年に本社第2工場を建設している。

真空事業部の工場です。真空機器の専用工場としてクリーンルーム(クラス1万)なども備えた精密機器の製作環境を整えたものの。80年代後半から始めた真空ろう付用の炉がそれまでに6台あったんですが、これを集約したほか連続式雰囲気炉、レーザ溶接、EB溶接など設備を拡充して、溶接、ろう付技術と真空技術を結合した真空応用システム装置や超高真空機器の製作を行っています。

**■真空事業部ではとりわけ真空ろう付の技術、実績が光っていますね。**

半導体製造装置や医療医用機器、原子力機器、光学機器、空調機器、理化学機器、超電導、放射光といった幅広い分野のハイスペックニーズに対応した高機能部品を真空ろう付工法で製作しています。例えばビーム加速器、セラミックパッケージ、導波管、ヒートシンク、超高真空チャンバ、クライオシリンダ、シェル&チューブ熱交換器、プレート熱交換器、ビームアブソーバ、ベリリウムやチタン、セラミックスを使った放射線ウインドウ、バックングプレート、水冷電極などの製作を、最適な真空ろう材、工法を提供することにより実現しています。

**■先の認定工場の話のときにも出てきましたが、ナイスの真空ろう付は一般には余り知られない特殊な分野で強みを発揮しておられる。**

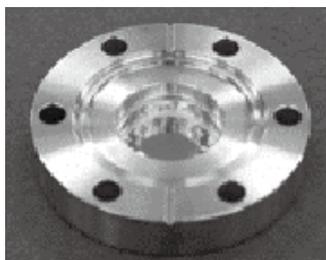
異種金属の接合や微小パーツ、ミクロンフィルムの接合、分級機ロータ、ターボファンといったニアネットシェイプ構造物の接合など、特殊といえば特殊。ステンレスを省コストで施工できるメッキフリーろう材や、セラミックス用活性金属ろう材のような新しいろう材の研究開発、アプリケーションの展開も強みになっている。アルミニウムからベリリウム、チタン、セラミックス、ダイヤモンド、超硬、銅、コバルト、ステンレスなどさまざまな材料の真空ろう付技術を提供します、というのがわれわれのキャッチフレーズです。



SPring-8向け真空槽



小型ニッケルろう付チャンバ



ベリリウムウインドウ

**■ところで海外法人もタイと、2011年9月には韓国でも合併会社を設立されていますね。**

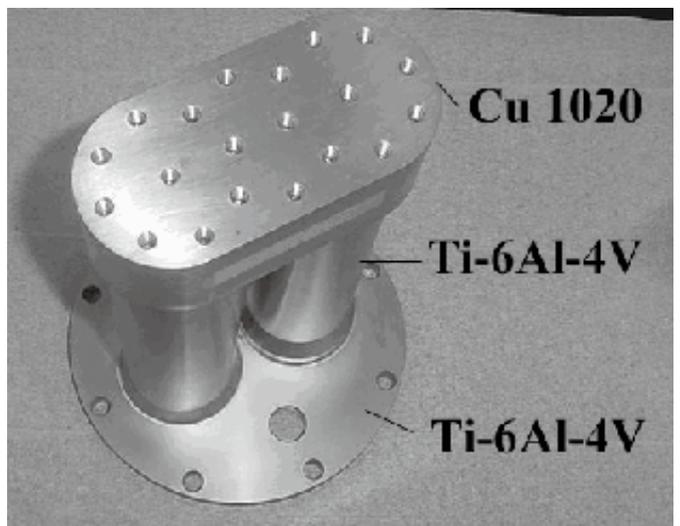
タイの「ナイス・タイランド」は2001年8月に設立し、エアコンの熱交換パイプ接合用のリングろう材をつくっている。日本で生産したいろんな種類のフラックス入りワイヤを持ち込んでリングに加工し、タイ各地へ進出している主に日系の家電や車のエアコン生産工場へ供給している。エアコン工場ではこれを接合部にセットし、一気にバーナでろう付している。これもアルミニウム、銅といった金属の接合材であり、当社の得意分野なわけです。量産品ですからろう付加価値は高くないんですが、いまは年商で11億円程度あげている。

**■タイといえば、洪水はどうでした。**

当社のタイ法人の工場はアマタナコーンとってかなり南東のほうにあり、洪水被害の大きかったバンコクから北の地域のように悲惨な目にはあわなかった。アマタナコーンには日系企業だけでも400社近くが進出され、納入先の日系エアコンメーカーの工場も近くにあるのですが、来るべき立ち上がり時期を見越して稼働しておられた。

**■タイが順調となれば、さらにインドや中国などにも出てこないかといった話になるのでは。**

そんなこともあって、連日会議で…。インドとかではないですが、韓国ナイスとして合併進出したのは中国市場もにらんでいます。日本でナイスの技術をみっちり学んだ韓国人ばかりの会社ですが、韓国で溶材販売や溶接、真空ろう付関連のエンジニアリングサービス、



チタン+銅製パルス管

工務事業のマーケティングを行いながら中国市場への進出チャンスを探っていきたい。自動ろう付装置などの生産や工務事業を任せられる外注先などもあればと期待している。

### ■折半出資の韓国ナイスを韓国の方に全面的に任せようと判断されたのは。

もちろん本人しだいなのですが、当面は言葉のこともあって韓国人でなければ無理でしょう。それに近年の当社の入社志願者をも、英語をはじめ外国語にたけており仕事にかける熱意なども考えると、韓国や中国の留学生などは意欲面で頭抜けている。こういう方たちをうまく活用していかなければと感じています。

### ■取材を終えて。

半世紀以上の歴史を重ねた企業でありながら、こだわりのない柔軟なトップの考え方にすっかり共感してしまった。商社からメーカーへの脱皮も言葉以上に困難なところもあったと思うが、「社員世襲」、全員で社業を盛り立てていくには、いま何をしなければいけないのか。トップダウンの指示もあろうが、みなが主役のナイス株式会社では案外すんなりと最適な進むべき方向がまとまってきたような気がする。山本社長は「競合のない業界なんてありませんよ」と強調するが、溶接、ろう付、真空の3技術をナイスのようにうまく融合し、提案し続けている企業がほかにあるのだろうか。



J-PARC物質生命科学実験施設BL14アマテラス  
約30トンの真空槽

「わが社のいちおし」では、会員会社の訪問先を募集しております。是非取材してほしい会員会社は、ご連絡ください。